

第8回エンディングノート講座

開催報告

H28年度第3回

- 日 時：平成29年3月8日（水）午前10：00～11：00
- 場 所：支部事務所
- 講 師：金田由美子 愛媛県在宅介護研修センター長（松山市末町甲9-1）
- 演 題：介護について学ぶ～在宅介護での看取り～
- 参加者：講師含む21人

【内容】

上田副支部長挨拶の後に講演スタート。

愛媛県在宅介護研修センターの成り立ち（H16.4月オープン）

H15介護保険スタート、一般の方の理解を深める為にセンター設立。

センター内には大浴場、車椅子階段、トイレ、宿泊室、研修室等が設備。

センターでの研修以外にも出前講座を県内各地で活発に実施している。

内容は介護予防・認知症ケア・ターミナルケア等各専門の講師を派遣できる。

今回は介護について学ぶ～在宅介護での看取り～

1. 「介護よければ終りよし、終わりよければすべてよし」

介護の役割とは何でしょうか？

自分の生活を（食事・入浴・排泄）自分の身体機能だけで出来れば自立。

介護は出来るだけ今まで通りの生活を続けられるようにフォローする。

2. 「生活行為に勝る訓練なし」

入院生活が長引くほど、退院してからの生活が大変になります。

入院生活は治療が中心となり残された身体機能が低下し気持ちも依存しがちとなり寝たきりに近くなる可能性がある。

3.介護保険を活用しましょう！

介護保険制度にことは早めに学んでおきましょう。地域にある介護保険外のサービスも探しておきましょう。

介護を受ける事を悲観的に捉える人もいるが終わりではなくその時に受ける介護が如何に大事か、介護には良し悪しがある事を知ってもらいたい。

各市役所、地域包括センター、かかりつけ医等

4.「後悔をしない看取りのために」

・延命処置（気管切開・人口呼吸器・強制人工栄養・皮下輸液等）に対する話し合いを家族ですておく必要があります。＊胃ろうについての实例

・以前は在宅での看取りがほとんどでしたが、それが病院主流になり再び在宅や施設に戻るケースが増えています。

・よりよい看取りは看取られる方の為であることはもちろん、残された方がこれから生きていくために必要なことなのです。

【質疑応答】

1. 出前講座は何人位集めればしてもらえるのか

→10人から20人

2. 終末期については素人には判断できず決断を医師から迫られて困惑した

→先生方の中には特別老人ホーム等に係るようになり何もせずに枯れるように亡くなる患者に接し意識が変わったと言われる方もいる。

3. 介護施設に入れるのか？

→松山市はまだ希望があるのではと思うが、介護保険を支払っていても満足な介護を受けられるとは限らない。

实例を紹介しながらの話で質疑応答も活発に行われ参加者の満足感が見て取れた。

講師料、交通費も無料の出前講座だった。今後も何らかの関わりを持っていきたい。